

演題内容

- 「アメリカの外交政策の歴史」
- 「エイズ対策を中心としたこれまでの活動紹介」

講演者

Management Sciences for Health (MSH)、Senior Program Associate
(MSH 調査計画担当主任、日本リーダーシップ・プログラム担当)
Christine Pilcavage (クリスさん)

目次

1、USAID

- ・USAIDと日本はパートナーシップを結んでいる
- ・日米連携で21カ国に対し取り組んでいる
- ・エイズ対策の偏り
- ・日米では予算、政策、実施、評価を行なう担当の仕組みが全く異なっている
- ・連携して行なうのはなかなか難しい

2、MSH

- ・MSHの設立のきっかけは人の出会い
- ・MSHの活動は広がっている
- ・MSHの日米連携も行なわれている

1、USAID

USAIDと日本はパートナーシップを結んでいる

1993年から2001年はCommon Agendaという名のもとに実施し、18部門のうち2つが国際保健に関するものであった。(女性と開発、人口と保健医療)

2001年からはトップダウンで政治的要素が強かった関係から、ボトムアップを目指し、Partner ship for Global Healthに変えて、現在に至っている。現場のニーズを把握していこうとしており、それに応じて、エイズの専門家を呼んで教育を行っている。

日米連携で21カ国に対し取り組んでいる

アフガニスタンでは日本の外務省の無償資金協力の医療機材とアメリカの施設建設で連携して行なった。アフガニスタンでは多くの援助がコーディネートされており、日米関係も強く、うまくいった。

ザンビアではJICAとUSAIDで現地の団体をサポートした。一つの団体を二つの団体がサポートするのは、USAIDはやったことがなかったが、やりたいからやってみよう！と難しく考えずに始まった。

ケニアではVCTセンターを建てたり、医療技師のトレーニングを行なった。

エイズ対策の偏り

一点にエイズ対策が集中しているという点もある。性交をしないための対策に集中しており、コンドームへ普及への予算は少ない。

日米では予算、政策、実施、評価を行なう担当の仕組みが全く異なっている

日本では予算は財務省、政策は外務省、実施はJICA、評価は専門家やコンサルタントであるが、アメリカでは予算は国会、政策と実施はUSAID、評価はUSAIDの口出しが多いものの、Cooperation Agencyが行なっている。

アメリカは結果を重視し、日本はプロセスを重視するという文化の違い(?)もある。

連携して行なうのはなかなか難しい

日米ではプロセスも異なり、文化も違い、レポートの書き方や予算決定の時期なども異なっているため、何かを共同でやっていくというより、平行して行なっている。

しかし、ワシントンと東京との連携や、private volunteer organization（日本のNGOと同じようなもの）が資金を持っている民間企業を巻き込んで、連携していくことが大切である。

2、MSH

失礼ながら、MSHというものを知らないまま講演を聞いてしまい、理解力不足とあいまって、MSHというものがあるのだなー、というくらいしか分からなかったように思います。こんな私の報告書を見るよりも、MSHのHPをご覧になるほうが、MSHを系統立てて見れるように思います。

(私もHPを見て、クリスさんが言ってくださったことが、頭の中でまとまりました)

HP address はhttp://www.msh.org/what_msh_does/cpm/index.htmlです。

MSHの設立のきっかけは人の出会い

O'Connorさんがネパールで医師の岩村昇先生の人々との関わりを見て衝撃を受け、もっと勉強が必要であると実感し、アメリカに帰ってマネジメントの勉強をした後、Management Sciences for Health (MSH)を1971年に設立した。

HPのabout MSH のHistoryでよく分かります。

MSHの活動は広がっている

途上国でやらないといけないことはすでに分かっている、しかし、理想と現実の差が大きいため、マネジメントを中心にその差を埋めていくのがMSHの活動である。その国の人と一緒にやっていくという岩村先生の姿勢を大切に、活動が広がっていき、今では1000人以上のスタッフがいる大きな団体となった。

活動はHealth Systems & Services、Leadership & Management、Pharmaceutical Managementの3つの部門からなっている。

HPのWhat MSH doesで詳しく書かれています。

MSHの日米連携も行なわれている

HANDsとの協力で発展途上国支援に従事している人への教育、経験を提供するMSH岩村国際保健フェローシップ・プログラムを実施している。

FASIDとは1995年からHIV/AIDSワークショップを開催しており、最も長く続いている。

ケニアで日本の無償資金協力との連携で支援を行ったり、アフガニスタンでも日本と連携して活動を行なっている。